

供養塔開眼式直会次第

(開眼式 平生元年10月12日10時開式)

直会開会

11時30分

経過報告並びに御礼 発起人代表 荒木家光

来賓祝辞

西山町町長	駒野 忠夫 殿
水戸市議会議長	福島 辰三 殿
友部町	野口 榮治 殿
当処戦没者子孫	大森 信英 殿

開宴の挨拶

12時

発起人 荒木 利雄



閉眼供養式参列者御芳名

1	正法寺	
2	真光寺	
3	駒野忠雄	西山町町長
4	福島辰三	水戸市議会議長
5	てるおか	水戸市議会事務局長
6	高橋輝夫	西山町々議会議員
7	小池弘	西山町々議会議員
8	若月陸雄	西山町々議会議員
9	伊比弘毅	西山町教育委員会
10	稲川明雄	長岡市市史編纂室
11	稲田秀男	茨城県勝田市
12	上野清彦	茨城県友部町
13	野口栄治	茨城県友部町
14	市村 記者	茨城新聞特報部記者
15	大森信英	当地戦没者の子孫
16		茨城県友部町
17	大谷忠男	
18	須藤光矢	
19	伊比 亨	

20	伊比 守	
21	寺沢秀一郎	
22	田中甚次郎	
23	野中孝一	
24	野中伸二	
25	田中与七	
26	野中道夫	
27	野中源一	
28	戸川良司	
29	荒木邦栄	
30	荒木家光	発起人
31	荒木利雄	発起人
32	池田基市	発起人
33	野中 勉	発起人
34	田中佐太郎	発起人
35	池田栄造	発起人
36	店橋正英	発起人

文

以レバ夫レ悠久不変ノ如キ宇宙モ分秒ノ体ムナク
自力他縁ヲ以テ形容ヲ刻々ニ変ジ、金剛不壞ノ如キ因
球モ又内外ノ縁ニ依リテ常住不斷ニ變貌ヲ遂ゲ、

一歴史ヲサカシホル。約七〇〇年ノ昔鎌倉幕府ニ始ツタ
武家政治ガ終リヲ告シトスル時、戊辰戦争アリキ。

江戸城開城後モ会津藩等、奥州、越後ノ諸藩、
同盟ヲ結ビ朝敵ノ名ヲ晴ラサントシテ抗ス。福澤
ハナレテ志援スルモ、アリ、吉処ニテモ慶応四年旧五月各地ニ
激戦アリ、利アラズシテコ、異郷ニ散華シ、白刃ヲ
深ス、運命ヲ背負ウタ、僅數千ナルカ、一三〇年ヲ経
シ今日縁アツテ戦歿電信ノ供養ヲ志ス有志出テ、
年ヲ重ネテ目録ス。

時至リ、人和シテ小納清セシテ不日良辰ヲ撰ニテ、一福修善、
クメニ供養塔造立、開眼法要ヲ廉修ス、尚又
因縁深キ、茨城県水戸方面ヨリ、奇特ナル輩、
方ヲオシマズ、ハセ来リ、物心両面ニ協力善根ヲ捧ケ、
過キシ日ヲ省ミ、マシメテ、靈位ヲシテ、永久ニ空ニケ
セサルヲ期スノミ、
然レバ、即チ軒殿各靈、慰靈追福ノ淨教ヲ細愛シ、
利益平等ニ及ボシ、永ク國ヲ繁栄ヲ護念シ、玉エ下
敬ツテ白ス。

維時平成元年十月十三日

真言宗豊山派一峰山法華寺沙門 松尾山院 院

供養塔設立までのみち

親達より明治維新の際、会津戦争と言って大勢の武士が戦い沢山の人が亡くなった。そして、「埋まっているところはこのあたり」とこの塚のことは聞いてはいましたが、百年もたった今（昭和五十二年六月十二日及び翌年六月一日、二日）四体の白骨が立派な保存の状態で出てくるとは予想もしませんでした。発見後、町役場、警察と各所の皆様の協力にて発掘し、柏崎警察署鑑識課でもこれは事件に関係ないと言われ、新大小片教授の要請により新大へ持参いたしました。

先生は、人骨の世界的権威者であり、先生に年代の早期鑑定をご依頼いたしました。

その後、各方面より資料がよせられ、加州藩の戦闘報告書、水戸藩史により灰爪の戦没者も五十余名と解り、別山古老の伝承などで慶応四年五月十二日東軍（水戸諸生党市川三左エ門の輩下百五十名）は灰爪に陣地を構え、西軍を迎え打つための準備をしていたところ、五月十四日早朝西軍長州一ヶ小隊、加州一ヶ小隊、大砲一門の攻撃をうけました。（案内役は椎谷藩の佐藤喜左エ門とわかりました。）西軍の攻撃は大砲を連発し、歩兵部隊の進攻がいかに激戦であったかは東軍の戦死者があまりにも多いことでもわかり、ただ驚くばかりです。

その後、戦没者の供養等いろいろ皆様とも話し合い、又、水戸市役所石川係長とも話し合い、お

願いもしてきましたが、諸般の事情から意のままにならず、頼りにしておりました新大の小片教授が急死され、鑑定書も出ず、月日がたつばかりでした。

平成元年に至り、戦いの場となった地主関係者が発起人となり、町内外の有志の皆様が御協力により、ここに供養塔を建設して本日開眼供養ができるはこびとなりましたことは、諸先の皆様のご大なる御援助の賜ものと深く感謝し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

なお、詳しくは灰爪の戊辰戦争をお読み下されば幸いです。

平成元年十月十二日

発起人代表 荒木家光

各 位

戊辰戦争・灰爪の戦

第三回おらが町学級 八月二十六日

北越戊辰戦争西軍、東軍激戦地戦没者遺骨発見控

○ 昭和五十二年六月十二日午後五時三十分トマト畑より発見

場 所 新潟県刈羽郡西山町大字灰爪向平六七三番地

畑所有者 池田基市

耕作者 荒木家光

発見者 荒木ハナイ

夕刻西山町役場住民課へ連絡。別山駐在へも連絡指示を受け、翌日、早朝正法寺住職より現地にて読経。

十三日九時半より柏崎警察署鑑識課長以下三名、別山駐在、役場角田課長、伊比教育委員会主事、和田又治文化財審議委員長並びに地主関係者の協力にて発掘する。

○ 北枕に浅いところ 20 cm に両手を胸に合わせ合掌し、古銭四枚（皇宗通宝）中国銭六百年前。数日後新聞の報道により新潟大学小片教授の要請により新大へ持参する。

○ 昭和五十三年六月一日昨年発掘位置より南へ 2 m で一体発見。

○ 昭和五十三年六月二日西山町大字灰爪向平六六九番地、荒木家光所有地畑より一体発見。役場住民課並びに別山駐在へ連絡し、六月八日午前発掘。各関係者立会の元に遺骨は No. 1 同様北枕にて胸に手を合わせ、No. 2 は

尚、他の五十人位の戦死者は塚に埋めたもの、火葬にしたものと聞く。

注。五月十四日は、今の六月十二日で当時は田植えの最中で雨降り。

。水戸家老佐藤図書、寺泊にて病死。寺に墓あり。

。加洲藩水野徳三郎隊長、六月二十四日久田にて戦死する。

。諸生党の子孫にて、人骨発見後、当地に來られ当時をしのんでお参りされた方、数名。

S 53・10・31 佐藤 重雄 佐藤 図書 (寺泊病死)

S 57・8・24 大森 信英 大森金六郎 (灰爪戦死)

S 57・5・4 桑名正太郎 桑名久三郎 (市之坪戦死)

(兄弟三人 娘一人)

S 63・10・14 水戸より諸生党を訪れる会員二十名

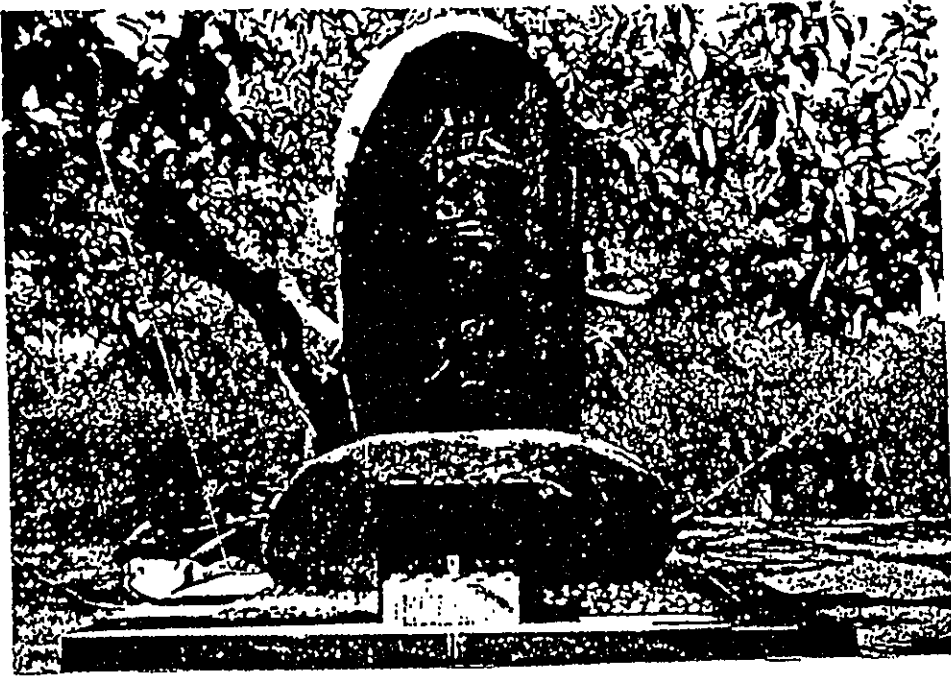
平元寺自吉 戦没者供養塔建立の眼張養義氏 駒野西上町長 今孫者三十六名 刻年 種長水戸市長

。西軍使用せる大砲は、1㎞位しか飛ばない。一発は上山田一本杉に當り左衛門の墓を落し、一発は上山田村中程の田の中を落し、埋る。

(灰爪攻撃の場合)

立村より正法寺坂をねらって、多岐神社着弾等、実例あり。 別ふ村ニ軒各一発有り

。戦闘当時、村々では戸を開け、大半の人が山のかま等にかくれ、西軍の通り過ぎるのを待った。



北越戊辰の役当死戦没者

供養塔建設

宛起人 西小町 荒木家光

店橋正英

荒木利雄

池田基市

野中 勉

田中佐太郎

池田栄造

茨城县 稻田秀男

上野清彦

野口栄治

